

# 次世代起点デザイン方法論による政策形成

2025年4月

武蔵野美術大学 造形構想学部 岩寄博論

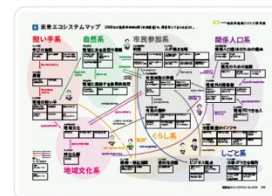
# 南長浜まちづくりビジョン for 2050 (R5-R6)



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



## ビジョン策定のポイント

---

### 次世代起点

- 現在だけではなく、未来に生きる人々を起点にした政策形成
- 今生きる我々が次の世代に何を残すべきか

### 地域資本

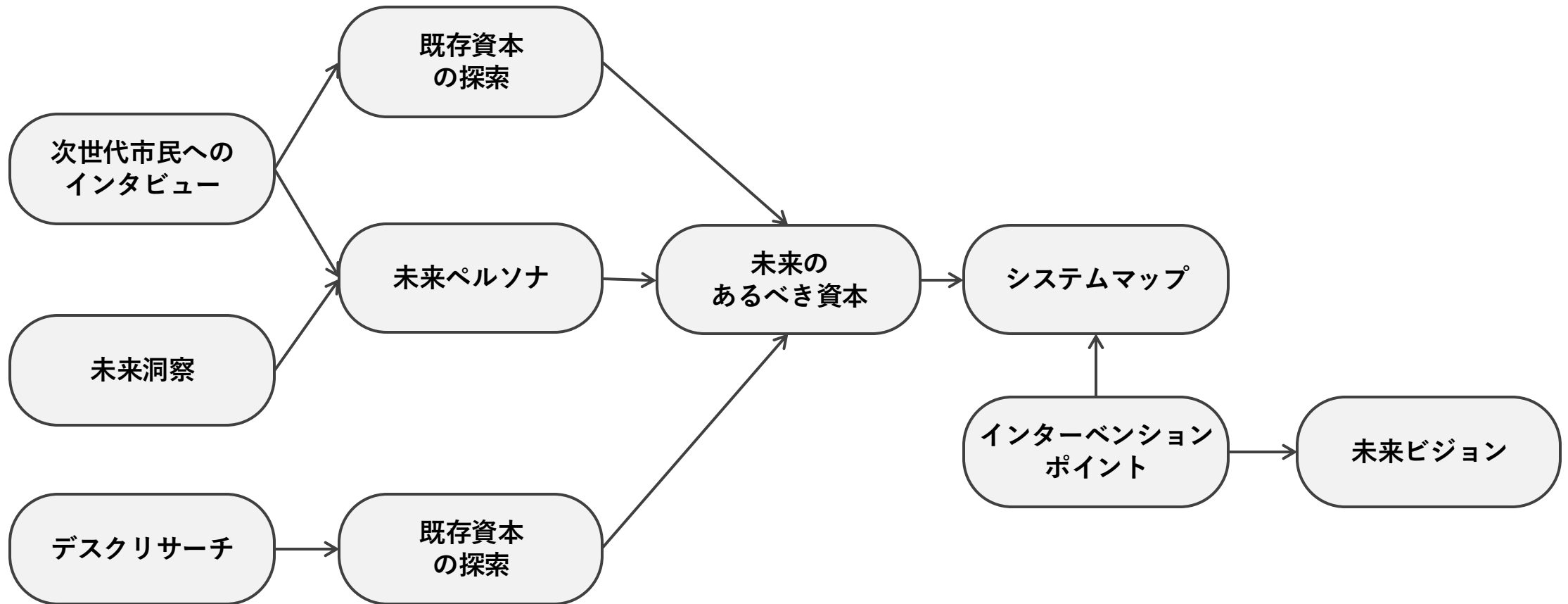
- 短期的な利便性だけではなく、長期的な豊かさを志向
- ストックとしての地域資本に注目
- 人口資本、自然資本、人的資本、社会関係資本

### エコシステムと インターベンション

- 2050年の資本の姿を関係性のシステムとして描く
- システムを駆動するインターベンションをもとに事業案を立案
- 事業案を束ねて、次世代の人中心のシナリオとして描く

# ビジョンの策定プロセス

---



# 次世代市民へのインタビュー

Q.この街での一番の  
思い出は？

Q.2050年の自分や街は  
どうなっている？ 等



10～30代を中心とした地域住民への  
インタビュー



登下校のときに  
見られる  
自然の景色

人のつながりに  
基づくいつでも  
帰れる安心感

住みやすい  
ちょうどよさ

祭りのときに  
地域の人と交流  
できること

地域のボラン  
ティアに従事し  
ていたい

適度な地域の  
つながり

今ある自然や  
風景は残って  
いてほしい

車がなくても  
暮らせる場所



# 未来ペルソナ

## 3 未来に暮らす人のすがた(未来ペルソナ)

地元住民へのインタビューや資本のリサーチ、未来インプットを参考にして、この地域の未来に暮らす住民(未来ペルソナ)を7人設定しました。この未来ペルソナを起点に「残すべき資本」を選択し、また、「新たに獲得する資本」を導き出しました。これら未来の人々の姿である「未来ペルソナ」やマクロな視点からの未来予測情報をふまえ、未来に生きる人を中心にした「次世代起点デザイン」の手法により地域の将来像を描きます。



### 向井 太郎

2031年生まれ／19歳(男性)

京都の大学で福祉を学ぶ大学生。授業はVRで行われるため、普段は南長浜に住んでいる。地元の友達と起業し、観光を盛り上げる事業にも従事。友達とアウトドアで遊んだり、身体を動かしたりしている。



### 斎藤 湊

2015年生まれ／35歳(男性)

大阪にあるIT関連企業の会社員をしているが、勤務はほぼ在宅。休日は家族と長浜市内でハイキングをしたり、買い物を楽しんでいる。環境保全の地域コミュニティに所属して子どもたちと自然の中で活動することが楽しみ。



### 柴 拓実

2018年生まれ／32歳(男性)

地元のバイオ大学卒業後、大阪の会社に勤めていたが先輩に誘われて地元で起業したバイオベンチャーに就職。南長浜で両親と二世帯居住をしている。自然や農業にも関心があり、将来は自分のベンチャー企業を立ち上げたいと考えている。



### 青木 京子

1980年生まれ／70歳(女性)

10年前に夫と死別して、それ以来加田町で一人暮らしをしている。週に何日かはパートに出たり、たまにくる孫の世話をしたりしている。子どもたちからプレゼントされたロボットに助けってもらいながら生活している。



### 川上 楓

2010年生まれ／40歳(女性)

普段は東京に住んでいるが、長浜にも空き家を改装した家があり、二拠点生活を楽しんでいる。通訳案内士の仕事をしながら、滋賀県の地域観光コンシェルジュも務める。遠くから来た観光客を連れて南長浜を案内するのが嬉しい。



### 河田 博

2005年生まれ／45歳(男性)

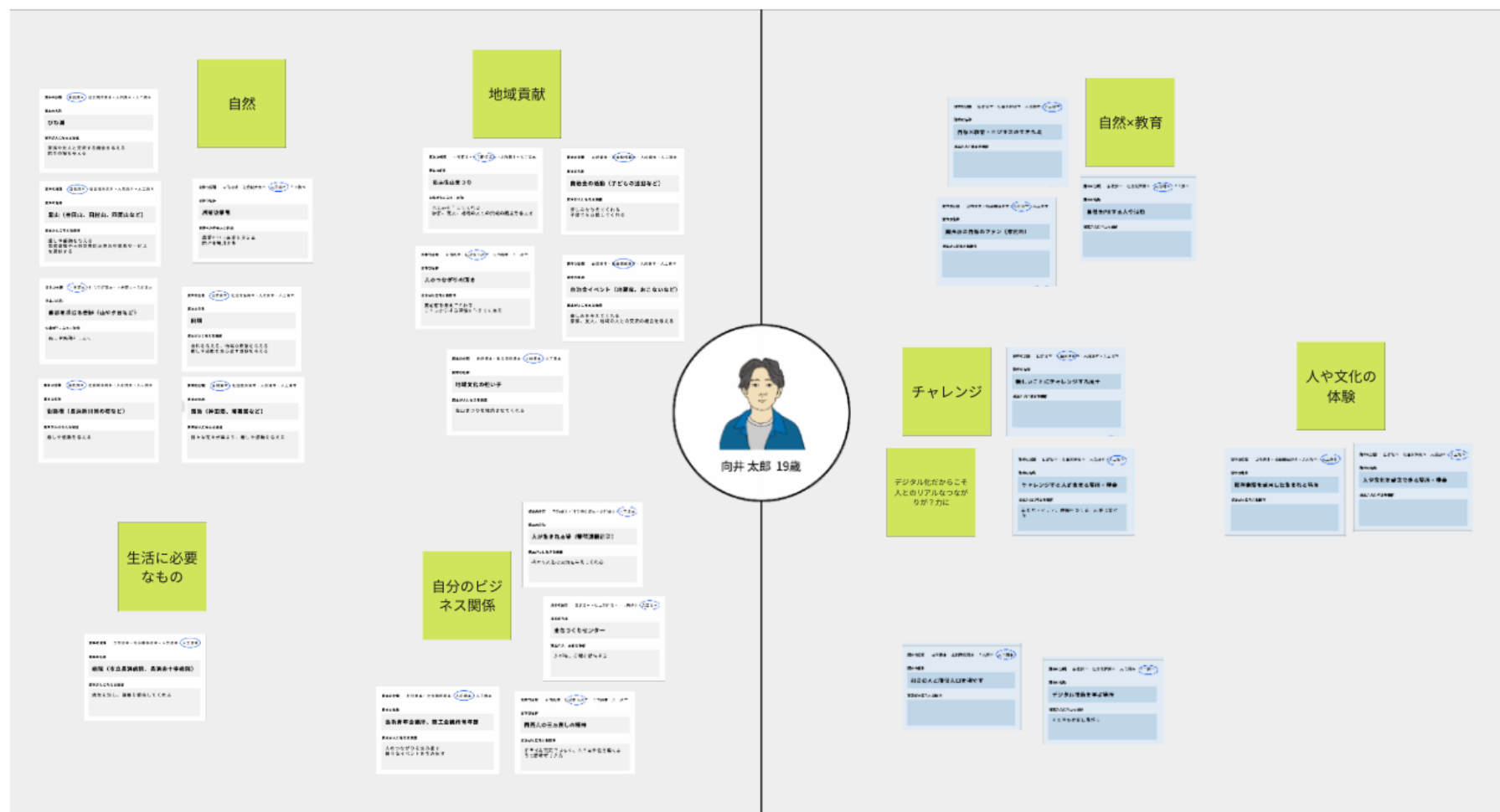
生まれ育った南長浜の集落で一人暮らしをしている。勤務先の県内メーカーが南長浜に建てた工場で管理職として働いている。休日は地域行事のボランティアや地元の野球チームのコーチに積極的に参加している。



# デスクリサーチとインタビューから地域資本を抽出

|                                                                                                                   |                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>自然を感じる景観（山や夕日など）</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>癒しや感動を与える</p>        | <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>長浜曳山まつり</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>楽しみを与えてくれる<br/>家族、友人、地域の人との交流の機会を与える</p> | <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>小・中学校での教育（南小・南中）</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>中等教育を与えてくれる<br/>仲間との交流の機会を与えてくれる</p>         | <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>人が集まれる場（びわ湖周辺等）</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>様々な人との交流を与えてくれる</p> |
| <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>溜池（神田溜、常喜溜など）</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>様々な花々が集まり、癒しや感動を与える</p> | <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>商売人の三方良しの精神</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>ドライな商売ではなく、人の関係性を築くような商売ができる</p>     | <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>学校のイベント（小学校のうみのこ、農高の販売イベントなど）</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>感動を与えてくれる<br/>生物への興味を与えてくれる</p> | <p>資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本</p> <p>資本の名称</p> <p>きれいで広い道</p> <p>資本が人に与える価値</p> <p>気持ちよく移動することができる</p>         |

# 未来ペルソナを起点にあるべき新しい資本を導出



残したいモノ・コト

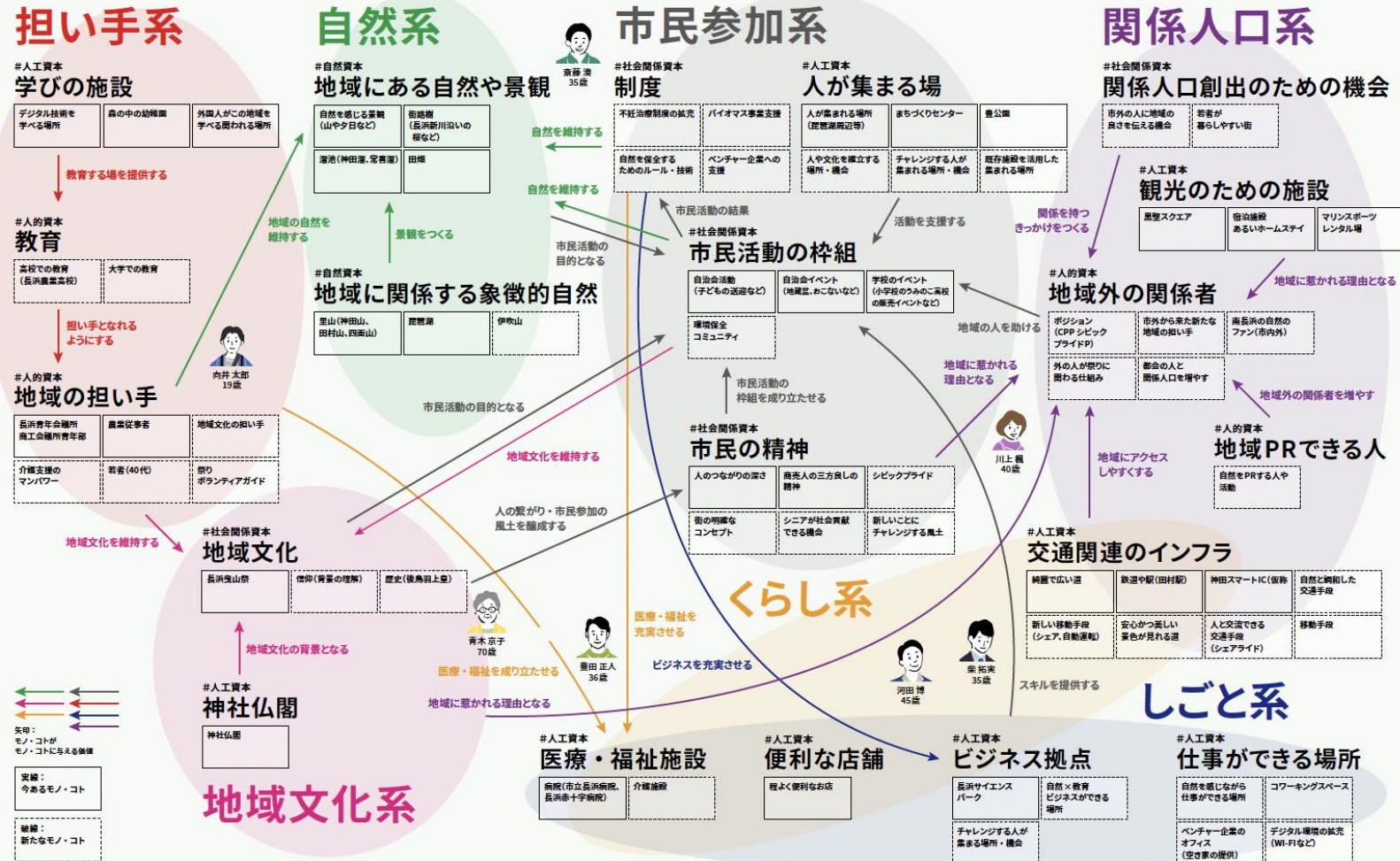
新しいモノ・コト



# 2050年の地域資本のあるべき姿を描いたエコシステムマップ

## 4 未来エコシステムマップ 2050年の南長浜地域の姿(社会構造)を、図形化してまとめました。

#3 — 南長浜地域のまちの将来像



# エコシステムを駆動するためのインターベンションポイント

## #4 — まちづくりの展開

### 1 まちづくりの方針

「まじわり、未来がそだつまち」というまちづくりコンセプトを実現するために、3つの重点テーマがあります。

このテーマは行政の組織や民間企業の業種を超えた領域横断的なテーマであり、それぞれの地域資源が相互に関係し合うことで新しい価値を生み出すものです。

テーマにおける小さな実践が、幾度も重なって大きなインパクトにつながっていくことを狙います。

### ゲートウェイ

南長浜地域の最大の特長の一つはJR田村駅、東海道新幹線米原駅からのアクセス、新設の(仮称)神田スマートICによる交通利便性にあります。南長浜地域は、交通利便性を活かして、人の往來の入口(ゲートウェイ)となる可能性を持ちます。観光客や二拠点居住者などの関係人口は、ゲートウェイである南長浜を経由して長浜に流入します。こうした特長を生かすことで、南長浜地域は、関係人口と地域住民が交流する場所となります。

### インキュベーション

南長浜地域は、交通利便性を活かした産業振興の拠点として高いポテンシャルを持っています。(仮称)神田スマートICによる物流利便性を活かして、企業の生産拠点を誘致することができます。田村駅や米原駅からのアクセスを活かしたアントレプレナーの事業拠点の整備が期待できます。長浜バイオ大学や長浜農業高校などの教育・研究機関との産学連携の事業創造や、地域の農業や医療施設と連携した食・農・健康領域のビジネスの可能性がります。

### ライフスタイル

南長浜地域の特長は、集落におけるおだやかで豊かな生活が残されている点です。今後テクノロジーやモビリティが整備されることで、この豊かさを残したまま、利便性が高いライフスタイルを実現することができます。地域の子育てファミリーから高齢者、関係人口来訪者まで多様な人々がウェルビーイングでサステナブルな生活を送ることができるようになります。地域内の大規模集落では、車の移動に頼らないウォークアブルな生活を実現することができます。

# ゾーニングの策定

## #4 — まちづくりの展開

### 3 全体ゾーニング

南長浜地域では、エリアごとに異なる特長や都市アセットがあります。それらの価値を引き出して活かせるようにゾーニングを設定しました。

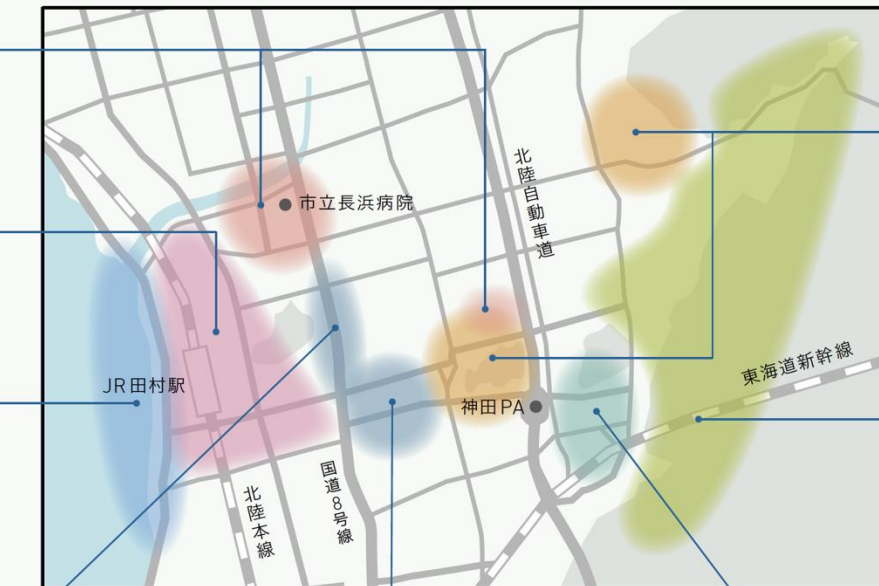
- リラックスパークゾーン
- 内外交流ゾーン
- 産業ゾーン
- メディカルゾーン
- SIC活用ゾーン
- 地域共生コミュニティゾーン
- 地域ネットワークコミュニティゾーン

既存の病院や老人福祉施設があるエリアは、健康志向な生活が期待できる **メディカルゾーン** として位置づけられます。

田村駅周辺は駅を活用して、地域住民と交流人口が交流するための **内外交流ゾーン** として位置づけます。

さいかち浜をはじめとした一帯の湖岸エリアは、駅からのアクセスもよいアウトドア・アクティビティの **リラックスパークゾーン** となります。

産業団地の北側の国道沿いのエリアは幹線道路からのアクセスを活かした商業系機能を中心とした **産業ゾーン** となります。



田村駅と(仮称)神田スマートICの中間のエリアは交通利便性を活用した産業団地が位置する **産業ゾーン** となります。

2つの規模の大きな集落のエリアは、人口集積度が比較的高い集落の特性を活かした **地域共生コミュニティゾーン** となります。

東側の山側に点在する比較的小規模な集落のエリアは、中山間地域の特性を活かした自然と共生する **地域ネットワークコミュニティゾーン** となります。

(仮称)神田スマートIC周辺のエリアは、スマートICの交通利便性を活かし、地域内外からの誘客によって賑わいを生む **SIC活用ゾーン** となります。



# 未来ペルソナを主人公にしたシナリオ

## 内外交流ゾーン

#4 — まちづくりの展開

### 将来の姿、活動展開

#### 駅近立地のコワーキングスペースで仕事

びわ湖の眺望や自然を感じられるコワーキングスペースで、仕事やプロジェクトを行うことができます。

リモートワークで働く人や二拠点生活をしている人のオフィススペースとして活用されます。湖岸の眺めもよく、休憩時にはリラックスパークゾーンで散歩したり、食事を取ることもできます。

田村駅や駐車場にも近いため、打合せやワークショップなどで外からくる人もアクセスしやすい立地です。



#### リラックスパークゾーンと隣接するイベントパーク

リラックスパークゾーンと隣接するエリアでは地域の資源を活用したイベントが開催されます。文化活動やアート、スポーツ、ビジネス関連など多様なテーマのイベントを通じた交流が行われます。広場やイベントステージ等の開放的な空間に多くの人が集います。地域の人々だけでなく、近隣市町や、京阪神圏、中京圏からも多くの人が訪れます。

#### 既存施設のスペースを活用した地域内外の交流

大学やインキュベーションセンターなど、既存施設を活用した地域内外の交流が行われます。

それぞれの施設の中には地域内外の人々が使えるコワーキングスペースやミーティングスペースが充実していて、市民活動の拠点となります。

田村駅やスマートICを利用して平日、休日問わず、多くの人々がそれぞれのプロジェクトを行うために集まります。

#### インキュベーションハブで次世代型産業の実証実験

バイオ大学に関連した施設には新しい産業のプロトタイプを推進するインキュベーションハブが設けられています。ここでは新しいアイデアやビジネスに触れて自分のビジネスを育て、検証することができます。

インキュベーションハブには宿泊施設もあり、滞在しながら組織や業種の垣根を超えて新たな産業を創出できます。また、施設内の飲食店や店舗では、食や健康、農業関連の新事業の成果物が提供されます。

## 内外交流ゾーン

#4 — まちづくりの展開

### 将来の姿、活動展開

#### 田村山におけるヤマトサンショウウオの保護活動

田村山では長浜バイオ大学と地域の住民が協力してヤマトサンショウオの保護活動が世代を越えて行われています。

活動の広がり市外からの注目を集め、このゾーンを訪れる訪問者が田村山まで足を伸ばすきっかけにもなります。

#### 食・健康・農をテーマとしたコミュニティ

田村駅前では食・健康・農を通じた人々の交流が活性化しています。

地域の人々と通勤通学で駅を使う人が共同して駅前のコミュニティ農園で農作物を育てます。

こうした活動の中から、本格的に健康と食をテーマにしたコミュニティビジネスを立ち上げる人も生まれます。インキュベーションハブとの活動とつながり、市民発のベンチャーが継続的に立ち上がります。

#### 利便性の高い立地を生かした住宅地の形成

田村駅と国道8号線の間の地域は、駅近と施設集積の好立地を生かした住宅地が整備され、内外交流ゾーンや産業ゾーンで働く人や、この地域の豊かな自然に惹かれた人が地域内外から集まっています。



### ターゲットプレイヤー

二拠点居住者 移住者 起業家 子育て世代



斎藤 湊  
35歳／子育て世代

普段は在宅勤務ですが、時々大阪のオフィスに出社するときには田村駅を使って通勤しています。通勤途中に駅前で目にしたアグリコミュニティに参加して、普段は接点のなかった地域の人々と仲良くなることができました。もともと環境ビジネスに興味があったので、ここでつながった仲間と農業関連ビジネスを始めようと思っています。



豊田 正人  
36歳／移住者・夫婦2人世帯

普段駅前のコワーキングスペースで仕事をしていて、休日はイベントパークのイベントに参加したりしています。イベントで仲良くなった人がインキュベーションハブのことを教えてくれました。インキュベーションハブで実証実験に参加したスタートアップがWEBデザイナーを探しているということで、副業で手伝うことになりました。